

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

**愛鷹連峰の縦走**

須山から望む愛鷹連峰(秋)



冬枯れの 1 2 月初旬、静岡県・愛鷹山に出かけた。越前岳 (1504 ㍎)、鋸岳 (1296 ㍎)、位牌岳 (1457 ㍎)、袴腰岳 (1248 ㍎)、愛鷹山 (1187 ㍎) を結ぶ愛鷹連峰縦走である。前夜は十里木の民宿で、御殿場の

越前岳から標高差 250 ㍎を一気に下降する。途中、呼子岳山頂からは、これから向かう鋸岳のオドロドロしい岩峰群が間近に見下ろせ、血が騒ぐ。9 時、最下鞍部の割石峠到着。岩壁がクサビ状に切れ落ちたこの暗い鞍部は

見るからに悪相である。ここからいよいよ愛鷹

鋸岳(呼子岳からの俯瞰)



越前山頂の富士山

地酒「若水」をつい飲み過ぎた。

朝 6 時、まだ夜の明けやらぬ十里木の登山口を出発し、約 45 分で馬ノ背到着。ちょうど日

が昇り、振り返れば雪に輝く富士山が見事である。以後、道はブナ林の中の降り積んだ落ち葉を踏みし



割石峠

めての登山となり、8 時越前岳到着。この頂上付近は愛鷹ツツジが群生し、花の時期には沢山の登山者で賑わうはずだが、今は人影もない。

名物の鋸岳の岩稜縦走が始まる。

スパッツをしっかりと締め直し、手袋は滑り止め付きの軍手に換える。食事休憩の後、気合いも新たに登攀開始。岩壁の急登・下降、トラバース、ナイフリッジ渡りの繰り返しである。ペンキの標示に従って進むが、岩に固定されたクサリとロープにすぎなければとても越えられない難所も多く、このルートを整備された地元

の山岳会のご苦勞にただ脱帽する思いである。緊張の連続の 2 時間を経て、やっと位牌岳到着。頂上には池ノ平方面から登って来たご婦人グループが先着しており、小生のテルモスの熱い紅茶を勧め、鋸岳踏破の生々しい自慢話などをちょっぴり交えながら、オシャベリに花が咲いた。位牌岳から痩せ尾根を 1 時間程下って袴腰岳。愛鷹山へは更に 1 時間、背丈程のクマザサを押し分けかき分けの下り登りとなる。最後は、愛鷹山からの長い長い下りにくたびれ果て、やっと麓の柳沢部落に辿り着いたのは、日もトップリ暮れた午後 5 時過ぎだった。